



↓字幅を広げて

↓字幅を広げて

雁塔聖教序・唐時代、褚遂良の
 倣書で書いています。ちよすいりょう
 書は行書の筆意を帯びた楷書。
 点画の間は軽妙な細い線で、
 ゆったりとしていて、粘り、抑揚がある。

きく とど
 菊を采る東籬の下 とつり もと
 東側の垣根のほとりで菊を手折る、の意。
 悠々自適の境地を詠んだもの。
 (晋・陶潜「飲酒」の詩より)